

横手の雪祭り

横手の雪祭りは、毎年2月15日、16日、17日の3日間、旧暦の1月を祝う行事として行われる。最初の2日間は「かまくら」と呼ばれる大規模な雪のドームに、筵や小さな火鉢、水神の祭壇を設置し祝う。小さな神社を備えたかまくらは、市内各地や横手川沿いに建てられる。最終日には、各地区の代表者がぼんでんと呼ばれる飾りのついた竿を持って街を練り歩き、旭岡山神社で一年の無事と繁栄を祈願する。

かまくらは、1900年代初頭には、各家庭が子供のために作った小さな雪のドームが主流であった。現在のかまくらは、雪祭りのためにプロの職人によって作られたもので、高さは3メートルにもなる。雪祭りでは約80個のかまくらが作られ、蛇の崎橋下の河川敷には数千個のミニかまくらが展示される。

祭りの最後の2日間には、「ぼんでん」が登場する。ぼんでんは、神の霊を一時的に宿すかたちある物体であり、ぼんでんを作った地域を表現するための派手な装飾が施されている。毎年2月17日には、旭岡山神社までの険しい山道をリレー形式でぼんでんを運ぶ。神社の入り口では、ぼんでんを背負った男たちが互いにぶつかり合いながら、混雑した門をぐり抜けようとする。最後に各地域のぼんでんは本殿で奉納される。